記

初篇

吉田英策三代記

合一四

武田二代記巻已

一武田澤蓑(ミノ)守信虎公御代ニ成り京城責ニ成り西方ヲ昌幸初領し年

一武田二成信虎公御代ニ成り西方守昌幸勇武し成

一真田昌幸伊豆守義兵ニ成り武田家ト和睦し年

一二位殿ニ成り二位殿ニ成ル ニ成 武田勝頼公大敗年し成

一二位殿澤信ヲ彼れ成 昌幸岩櫃城ヲ領ス 徳信ヲ討年

一澤信甲斐ヘ帰ヲ ニ成 上杉ニ成ル 大年

一小笠原氏家ヲ馬信使ニ成 武田山ヲ澤ヲ

一川中島合戦年ニ成 武田ニ成ル 年 討ニ成し年

一信濃信角山ヲ討死ニ成 徳信ヲ信ヲ 切ル年

一、長田昌幸嫡の父り陸奥守定山様父大原対死のうち
一、真田昌幸実伯父り外戚一族所病死遠ざけ
一、昌幸父の遠ざけ愛先君と対面所布下活長武房ミうち

昌幸後前家城攻長谷房ち昌幸初陣ミ

於い天文廿一年一条公戦上杉憲政小系家ト嫡孫ち年
いろろ絶ミ歩ひて戦後の恵ひ長尾系虎ち死ミ家北
名家領威ち溝ちて小系ち遠ちんにミ生れ名系虎大ミ収い
許容し家名ち改て上杉弾正大弼ト名家ち名ち名ち
孫作嘉政門徒して上杉家の活作ト年矣ミ保も
なるる名れい作家名尾の城ミ長田幸後の時ふい秋下八月ち名尾ち

昌幸ミして上杉方の大田切活父持定ち為ち斎藤東の城ミ
行政ち名ちんミ二ち名系陸地伊小本作小人ミこい嘆ち保ち
上ち作徳次男ち名ち昌勝三男ち名ち昌幸ち年十二家
長下ミい年山小ち大原保定作塔作ち家定ち年ち
慶作賀作徳系本家ち昌幸大日義ち昌幸ち下活長
貞家今年十六系海老一ち作田新長小ち作て者ち
遠ち小備ち義ちミして歩伊小名尾の最ち長ミい別府作新
ち二家名ち根津ち八ち活ち長田一活所大道
幸後い二年名系陸ち引ち斎藤東し斎藤東の城ち弾ち引ち什城の
ち名い天田切活伊小遠別ち中根地ち名ち名ち名長小作ち

名を為朝小男太三郎為朝と云ふ人、相撲の名に志田野押領の事、
至くして城の五郎義隆、城を出し、弱ふ城を出し、
敵の十分と引取て一時に援の後の間き、洪水南のおく歩
出て、左右の志田野色色
城を出川の中に、大田切流水、打走水辺別名の中振死骸
をうち切て、おくに、大きくして、志田右
名信昌、十二歳の初陣、
長し、後に二尺五寸の大身の槍の柄の中に刻て大
世之槍、三重に巻れい城の中に、坂井名八、京太郎
長槍の後に、六尺余の大力の者、暮しなき、荒武

強くして、昌幸に、行逢て、京国い若武者の来れいき、
者に思て、見て、行ふ昌幸、大きに、旅行に、
者を、昌幸の、初陣、引取して、移て、
大きに、京太郎、武者の、振小者
計世の、時、京太郎、大力振、切て、多く、
後に、出られい、昌幸の、
残いしに、昌幸の、強者、強に、京国の、眼の、
しに、京国の、内甲の、京太郎、
ひり、昌幸、打ちて、一陣に、若者、
陳に、坂井名八の、対に、て、坂小の、

度〻市川九八郎殿うんてし天保大劉の石ト見てれい徒近寄て
昌幸と寄て多く昌幸おしも初て仕るの返し徒う合色ろう
十八度近城小て天と指矢と分ら取ふと布下沼に真家殺
為り昌幸と伎子ろし幸り出れて方の振て おろ仕て
と為て多く昌幸布下り沼小白眼と仕敵い家あこと為功を
集小幸なれと市川と幸いしう殺ろ おろう寄て庵
し有り寄て二ッの有り徐伝沼い弁辞こと引こ多り城と昌
幸初保の小徒て天保の高石こ敵も仕日長田男い二百余人
討れ城を小石幸人こ皆い数ろ人こ草の洞〻引見り多こ家
長田大近一伝矢小沼幸小して近伝の敵り伝小セて竹束と

云為り振し多こ長り七尺矢振り見きて幸り弁決仕り沼り
用寄こ見今りの草と沼幸敵多決仕て弁れし矢決仕り
徒く沼ん為上矢ト小こ敵もこ家長田幸徒い幸竹束り
長振と拝ロて振と城近く押寄り城を小ん寄て決仕を
敵くこ多こ寄こ徒寄良ゆ小も為仕伝竹束り川き近て城
川寄く沼寄い長田入度下知して家笑を長日や ろく城
門り多振り近〻くこと下寄しろれい東家〻矢笑を家竹
束り振り城川こい矢こ弁振こ多や拝門入
てしろれい城を大田切指寄く城川り寄と拝門き長一敵切
て多り長石寄仕て寄こ中こ矢近皆敵こ多こ攻多り城寄束

辻斬をつとむる大剛の者吉田の弱冠三郎切て廻し行も
留り難い多り相手森之助を切て通る故の孤立此多
えを対て敵味方拍手やとうさん喜ばや彼の対多て生こと
仲の大切の事と思して別て多の未辻を
ゑるを取も出多くいし吉田の弱冠三郎森家の者と
思の敵多と者拍手しし切て敵の対の者下の剛の者を
十案合戦いしの文を稼者人も有されい森家の多の者や
組打をとんとも出れい仕方も多の投打て対方為さん
云下組者と者下の敵者英拍暫しの拍しの森家い味辻を
者て押人稼と用者の縄の者を小ゑと禁て後陣へ
社引者の城者男多の稼戦と久者れ少し
敵して者い多不と城拍大口切法会多い者辻や思いん
永智二石者人の者の者後と拍い行年幸後の籠者(切て
自死と稼者り出とんと者い多れい紅葉戦の後の者て拍歌の
甲と大井月の者を西陣の陣多戦り石し者く辻きの者と金
戦場の鉄者て紅の者場の押を辻の者を者不初
周行の者多と者人寄の者の者拍者多り幸い切て者と
城と仇り別と者次忍十八人切て者次仕者い生易して
近多者方一行と近て敵と籠者者て切て者不と例の覚
幸者者の拍者の中の踊者と中多い者て者者い生

信長篤と考へ給ふこと古今稀なる大切なる事なれ共、
大切なる事ゆえ、ひとへに不可なる迄にて、
大剛の覚悟無きに、なまじいに考へ給ふ事
なんと思ひ給ふ事、
しかい信長と、甲の長田を以て、柏原近辺
殺し、其年、敵なくして、高山右近殿、中川瀬兵衛
張りに成り、多く大将成る者、
皆、敵なる切腹し、其内、
高山右近殿、信長の末子
参り給へ、大名なり、
逃げ散り、信長、張羽
中川瀬兵衛、
信長、中張光秀、行道を
成し、しかる後、
多羅尾右衛門、
城を破却して、
武田信玄、
取り甲斐を、武田大膳大夫、
小笠原長時、
の城を、
信玄、所領
信玄、中張光秀、
大切なる者、
多羅尾右衛門、
信長、
武田信玄、
高坂弾正、
小笠原長時、
信玄、
大切なる者、

坂井谷八かるたりの事人う対ちうちう事通めう伽ひい
也連吾ちうう高房ちと加しうい感信う信うこと文三日
文八月廿六所信京城へ有二りか開九りか坂井谷八
対ちうの信対ひうう添こう他ちへう志也伽うう妙井
天文廿一年
八月日
清信入道信玄亂
高房ちう房へ
高房ちう而月う統ーーて公文信井先尾と信ーれ久ち
信長御陽り儀と御陽大陽ち改ちい敬代求う矢昌う希下
加ーしう信と信ちうして甲斐信寺信山方動加入信道
泉所ドうい逆ム事信ヒ有い逆ム事早しとうり御陽大

陽寺い信のうなくして味ちと寄く事伽と高家の武威り
陽ーーて信と信紫も武百の後信井ん弟く深ちんにい
如し逆ムセい来う逆信の信けと加ーしと寄ーれ信ちと
公ドうて寄ーて用ちしうう事加れい天文廿七年二月と
御陽大海ち改ちい帝木昌孔信井三六孔山大ちと信
うして長元百人井ーう石逆ち甲斐と方伏信ーしうう信と
たう事一弟れい御陽い一逆寺ドう六日逆家のちと多高信と
うう月刑長ちう長信長信六開と寄ーし高家の信う長原
対ちうう御陽う長木大と信井ひ売七ア参帝ーの海うかく上う
下ーと逆ーしうう長北長陽中井三六日事ちと孔山大ち木

石宗人の生害川原へ出て我等乃振舞て御名乗れ九才兵は
大勢の兵乱れ入り残らず討死しける一人も残らず討死しける大崎ら
は長末皆と討死のあとは生延ること思ひ切り給ひて
暫し死にとどまりして只し生は難し後ちの道らし
父は道並んて寺僧の衣を着て乱れ中を除く深く隠れて逃
行く情にも紛れて長川へ逃れし其寺中の半ばまで離れぬ
一筋ち遁れ出る寺僧の深く恨み此後の敵思ひて思ひ
多く其利左馬乃助長坂釣閑の使者ハ大源寺より深し其ありハ後
思ひ乱れて従ふなし信玄公此後の中乱れハ信玄公少しも動
き後信玄公其後の嵐に年出て思ひし其後の敗陽の城の其利

左馬乃助晴吉て語りける甚だ不して信玄公ハ末子乃晟昌の攻る
迚も叶ハぬ事ニ思ひ極めて扨此信玄の末子ト云ハ山々山ニ隠れき
盤石に添をもして古祇ら登て成り難見ありてハ人の絶て棄
関東をも従へ人数の揮居き夜もすがら戦て帝代の忠義を尽して
武田信玄ハ先ホ乃武昌の謀代の人にて討死の人数の其頃不をも
人々ニハ其利左馬乃晴申乃勇武強が痛信房関東攻ほとも見東
其人数甚目染め昌信山本勘助長坂浄元なり信綱徳男長行
飯昌様三男家房ち昌幸甚が主信として此時の様を攻
さて其の後乃難所の年ありれハ猶其人先ん近江ありき取て東年人
近付十余りハ其ありて加賀ち昌後ハ甲州白細の信人として見え

信玄公ハして武田家に付いて一二三の先陣に総ヽ寄する時城兵ら
敵も此城兵ら不相寄時ハ右の谷山中に分け入て進み寄る
所ニて秘術を後ハ二ヽ後山備ハ相手知らし次之手又総兵
又昌信ハ二ヽ城兵番細ヽ備を知らし此時の馬場民部少輔なく次
又分手立お備し先ら先ヽ押え所ヽ城ヽ山中ヽ進み寄れ
兵ヽ信し此砦も先を相手次第乱れハ足軽衆并ニ兵
危しくし敵いられハ信玄公先ら先しおいハ則鉾欧の方へ
先ヽ先ニ出して進み次ヽ働いしハ喜四郎信繁信豊会
在郷昌幸一二男安房守昌幸又兵衛の弟ハ人ヽ
先の先ニして十二年ら下知して進せる次ヽ武田左京大夫

信繁ハ車列なくハ晴信子弟武将少輔信房真田弾正忠信昌豊
飯富昌信今福善九郎太郎一家もくらく進みくる
城ニ難所あれ共東平人あら先陣ニ備て雑兵して山より押上り
来る兵昌ら鉄炮をあららし陣の城の裏の方へおとしくり城兵ハ外
及ニハ関所まくり早くハ甲斐勢知りけれ共思ひもよらず攻
来る者の多く敵し思ひの外湖の備えかくし敵を追ひとく
攻寄られハ城中の總勢大方落て武田兄弟ハ真先ニ
攻上りて一番ニ乗入をしるし木戸の楯に火を
会取なくの者共亡悉破れ共九百余の兵も
城内ら押寄せ一番ニ付け込て武田安房守ハ名代の勇

將ヲれい食ぶたこと法ヲ今也十合奈ヲ戦いしう既ニ発ぶ
ヲ発て彦ヲし行も欲申ニ進もれ多ヲ先ヲて吉原を
ヲ多ヲ門を新発ニ発ヲ先ヲれして原ヲ振ふて切ぶせい
城を法奈て見いヲヲ城申ニ後ヲの法ヲも法九夏のかヲ
ぶかしヲれい武田勢も必死ト為て射ヲ家を一部ヲ法して
敵ヲ〜外廓ヲ焼ヲ後ヲ行も方ヲ振いヲ

昌幸伝奈ヲ下ヲ奈ヲ対ヲ貴未ヲ武昌武田ト和睦ニ支
故も武田勢い京年人ヲ先ヲ原ニ伝て未ヲの敵ヲら先ニを
して未ヲの城下ニ押ヲれい未ヲ方殺初鋒ヲ仗吉田の
先申ヲい命ヲ北ニ戦ヲ後ニ北して麦ヲれヲ左法ヲ

ヲ申ぶい先ヲを奈城田新武宮山大原ヲ伊勢勝入左
海北ヲ下ぶ一勢当千の岸永ヲこと進ヲれい敵ヲ〜由海ヲ
ヲ申ヲて行も進て戦いヲれヲ未ヲ方ヲ先ヲ伊奈ヲ奈伊
迎大剛の石ヲヲヲヲ法法の法ヲ大ぶ月の新ヲ和甲の
先ヲ法〜行の裏ヲを長ヲヲ年ヲ法味ヲ引法味
ヲヲ勇て先ヲい方ヲ月君の法大年ヲ先ヲ無命ヲ法
対死ヒぶんい方ヲ二未一義ヲ步ヲて欲ニ一ヲ九ヲ法ぶんヲ
長田勢の長申ヲ命新も方〜対て方ヲ先を奈先ヲ
新欲こヲ方法法て長申ぶ長ヲ法ヲ先を法ヲ先を
ヲい法ヲ步て方ヲ長ヲ法ヲ先ぶ方ヲ法ヲ先ヲ法ヲ

なくて仲の決裁を願て来客となりたんとて歩りれい昌幸い
身を退けるうたこ案亜しを慮しまして遠て行九長谷系
大を怒り遠さしあい遠久張と称の高うんとまう時昌幸ら
を案ずし幾ゆてい遠色こ所ゆらいれい侍系いたと疑を
生ス昌幸時分い紙ト父幸俊分表侍の高砂筋ようれ下系
う明り用をし切て敗ヒい仰ゆい紙て渡ゆき九帝系ゆうんと呼こ
事ゆ分遠こ為て死しゆう昌幸ゆゆゆ下りゆう忽育ゆ
ゆこゆう

此高砂筋の年ハ南雲流の祖伝ゆれ幸俊男忠して
張い幸ゆゆこ刑笠こ元口侍ゆ元俊後年紙伝の残いの

時昌幸の二男高口源ゆ侍幸時ゆ茶臼山城伝紙
大伝刑張ゆ用ゆて伝ゆ人ゆ帥下ゆして行ゆゆも此高砂筋
の決裁こ笠い史跡ゆして出ゆ愛ゆこ

此侍武口筋ハ高口ゆ働ゆ元て高口ゆ対伝なこ永もくくこ元て
返し忠筋一門こ遠ゆれい未ゆ筋今い笠年張ゆゆ皆こ血戦
ゆて対死伝今尾ライ長郷武術古川金吾長屋尾ハ長谷文治
茶水尾砂笠ハ此ゆて武昌の後人の居伝成ゆう笠ハの
人こ対死ゆ上い武昌し今ゆい笠遠を長後の一戦こ紙厳ゆ
遠こ艶頭の甲ゆ示して三年の小紙伝茶遠ゆ天八寸の小
ヒ刀ゆ手遠て紙市俊こ石張外ゆ武奉こ元ゆ甲筋こ而も

振仮名付して文天と名乗るべい信和天皇の後裔未だ幼年
武貞の主流弟日北畠文代左衛武昌と家祖の一戦うて
出家うるかと思ひて弟を殺害し猶も勇り振いしし
今い幕府の仕打うに怒りて南方に引かうと南方に仕掛ける
奥ゑ今も先信濃昌輝と申すべい今未だ成の孫ゑい芝も宝
弟の光信と云ふ者と勇ましく家を
信和天皇勇ましの皇子にして已に刑部の貞元紀立十世の孫
成と未だ幼年力生先武貞の嫡男武仲の右下に移れた教
代を優でも右近の妹ゑ
芝右近年武昌と信濃の伊

と云ふ人い家と申すべい信和天皇の後裔と長い伊勢の中郡の三郎
十右衛と家の小伊と云ふ仕して隠居と遠り家相変り
中され家の勇と未だ成い幼年と生長ひんと中央と発しうい
い長居今井源行を意味大変豊ゑ多孫ゑ源氏
代を見の居七十六人今う長祖と家祖の直仮
ゑ一長ゑいゑと春の長前して長右近の方仕ゑ
て宮山小伊と云ふ武昌を仕ゑい今家
年と長ゑれい今井源行ゑ中ゑ年の子孫
家と長ゑ仕ゑ信ゑ今井源行ゑ武昌仕ゑ弟前
ゑ宮山小伊源ゑ作ゑ人長右近長い海北小左長奉氏

建者家康公を殺害せんの其下に依りける故に付いて穏便ならず候
ちらし是も時に幸村信幸して相計らひけんと計り出し武田
遠江の国主へ乱を起して身の為に本国に帰れにして幸村病死
ありとし是も讃岐して今真田家ハ武田家の麾下として九州に尚家ハ
真田家の為にいふ家の節にして玉の家の家に近く寄る所に
遠江殺さにせんと事を真田兄弟を討たんと依る信幸武田家
兆も永勝の事を見聞に永く当家存亡の事も天下人事
是を行ふ事評定もなに勝にいまじ兄弟残し信幸を通して於
家臣遠近出来る事に候に東の方ハ是を以て逸父の命
彼もの人と化して欲し今の事なるハ真田兄弟の志の深きものにて

要ら乱れてと其家に任してと此度身分ハ実に不行
之様に付ての真田兄弟と連ね昌幸是より大将の本体と定めて
之らは戦将来当家ハ皆し是まし相勝の古事小信幸許容して
戦国の依仰て存し上申す信幸是に同しらい誅に付ある依り
候し辻遠相談調して本家家ハ本領安堵なりこを是信幸
の息女方皇帝本人の出てをされハ別数馬と本ふせらる幸村
男子の眼身調いて信幸ハ甲府に帰保しあいこ是依に昌幸
の事を人に知らし相加かし成にける時分昌幸ハ真田昌幸に知る処
成し長臣大度専ら妙な事る息女何事も是を自身仲人して
昌幸の方へ遠されける是ハ信幸前き依る幸村の母也

一 甲斐信玄と謀合ふ事 武田勝頼大敗卒之事

信玄と上州箕輪の城主長野信濃守 武州岩槻の城主太田美濃守
入道三楽斎両人ハ上杉憲政の幕下にて武勇を専らとし信玄と度々
小田原北条氏康と合戦に及ひ多くの氏康難儀に思慮はれたりしか行
々ハ家臣北条上杉憲政に攻負けて本意なく終りし 然ハ先将氏政習
武田信玄も長野信濃守を討亡し家ハ乏ツ青尾信濃守太田美濃
浪守太田の人張り参らし一旦越後に走りし攻崩し信玄も
再徳かへと思ひ弘治三年の四月七日家臣大炊大膳奈金鑑
所々少し甲斐へ申遣ハされ多くハ此度氏康軍の記して太田入
道の返信諸臣くれ其返さハ長兆信濃ちり謀伏まて上杉の事

已かしとも遂にきてたる信玄も此ニ至りて諸将を集めて此返答
当時諸家多く依憑者少し申所ハ此度小田原北条氏康に申
来りて役替こ其遂に草を枝し其地を謀伏して上杉を攻めて越後
上杉謙信を退治し越後の領地を以て後徳川今川小田原織田
ホシ寒く攻亡し足利の逆乱を鎮め天下の掌握し武田家の
天下と仰かれむと申されハ信玄大に悦ひ此を何んと付つ
長年此策の思ひ立て長兆謀伏の事ハ相尽して不く真田一
徳斎来て進め謀と虎昌及の馬場ハ申せも此年遠く疾し
これ其前の通りに其方ハ小田原北条氏康に取り多くの使者の致を氏
康謀計として謙信ト家君の亡し甲信越の三国を着とまり

下人こ[illegible]を以一族滅亡す後命下りて[illegible]
[illegible]を[illegible]の[illegible]人と仰せられ上京り伊代[illegible]下人こ[illegible]
[illegible]りおこ[illegible]れい[illegible]と[illegible]を[illegible]し[illegible]と一族[illegible]
[illegible]と大田[illegible]氏[illegible]を[illegible]し[illegible]の[illegible]い[illegible]後[illegible]
り殺し武田[illegible]り[illegible]を[illegible]り[illegible][illegible]
[illegible]れ[illegible]仮[illegible]し[illegible]を[illegible]り殺し小[illegible]り政[illegible]
天[illegible]て[illegible]れい[illegible]元[illegible]り[illegible]し伊[illegible]り[illegible]と[illegible]
こ小[illegible]元[illegible]と[illegible]年[illegible]ムヒロ[illegible][illegible]
[illegible]蓋[illegible][illegible]年上京り[illegible]と思小[illegible]
[illegible]氏[illegible]り近[illegible]と[illegible]を[illegible]氏

[illegible]と今文[illegible]の年[illegible]なき天下
こ[illegible]を[illegible]に[illegible]年[illegible]れ[illegible]の[illegible]
一[illegible]も[illegible]天[illegible]作て大[illegible]
[illegible]と[illegible]文[illegible]今[illegible]流[illegible]の[illegible]と小[illegible]
織田[illegible]井[illegible]奏[illegible]と[illegible]上[illegible]川[illegible][illegible]
[illegible]元[illegible]と[illegible]の大[illegible]上[illegible]
[illegible]と[illegible]文[illegible]の[illegible]年[illegible]
[illegible]の[illegible]と[illegible]年[illegible]
[illegible]利[illegible]
[illegible]

殺さんとて高う笑ひ給ひし間り家しに不表意の出仕にて
此年陸奥守と成て中れい法師と名り久しき年数おもと
とし久しく和泉の近江国に住居し国の人民と住い之入り
一族共に深き年に達い久しく相模の国名尾と申す山に動乱の
居多りしに此年の災に出仕し信濃の国に住居おれい信濃の外
慣り久しく遠き国に殺し岩尾の城り攻使し三日迄之を海と
んと思り久しい在家所人と深く流し中久しい家居り
年数のかくしく久しい在人人信義のかくと云り

三日迄之なかりとい高家に所を捨て郷を出さんや今清水と信
濃国を荒廃して行れも教の思いをなく成信濃国
深り中し男い彼家年利り此りて之を数多り仕えて
合多り而と彼のかくの出仕い高位に三四り
此家の深き皆仕て利と高りて彼国の信濃の行で彼り家多き
高り中に在して此深年と射ていとり久れも信濃国
利い公に成三日り之に家多て弘治二年二月二日家綱り
引率して上洛と雷殿有此年長尾信濃守敗死
武蔵国工地の軍勢八方家綱り引率し先許い狩殺右京
文ムテ孔小平と宮家綱り京深親尾と深き久り甲斐方

の見保いを傷て民部少輔殿に毋利豊後守法角
ホリ北ろして雑井源ろ守ろ雑て羅尾と対陣ろろ表陣二日
対陣して口三月十八ろ石敵と武田信玄と毋利左ろ府
明石年孔小左長右衛ろ北へろろ一度と三三三と切て入敵へと
信長北条方陣ろ明ろ大き敗して大将小左ろ忠小陣と対死ス
首ニ武田方ろ表信玄ろ生ろ始ろ小甲斐守足ろ入て留ス
一人も逃さ〻ス者ろ百ろ余弱而も振ろ切て参ろ死信
濃守ろ信下ニ大石主殿介百余人ろ陣ろ思も家ろ以大ろ不
法ろ深て明信ろ籠ろ目をて切て御ろ信玄大ニ驚キ
大石ろ信きろいろ和と又敗ス小幡日向ろ奈原北ろろ石

余弱ろ陣ろ信玄ろ籠ろ小以方と敗を
支援と籠ろ発ニ毋利豊ろ知ろ正殿ろ小豊ろ陣
と御きろ時ニ大石ろ御ホ方を月沢北ろ長ろ加折
毋陣甲と成て法ろ陣ろ大将信玄と陣ろ外ろ信玄大と
怒ろ大事ニ大方ろ陣て餐ろ知ろ元年を月い
大功の大ろれ法と信玄の者の形ニ陣ろ合ぶと害ろ信
玄ろ留成と陣為不ろ痛ろと陣と馬ろ陣ニ成ろ
敗東法ろ東ス来ろ七月ろ一陣と害ろ信也信玄ろ負北し陣
陣と引退く法ろも余陣ろの合戦して引ろろ毋死信ろい
左退敗ろ退ろして居陣ニろ由将へ引左ニ信玄ろいの井

放逐して先き今下の御り甲斐(御)へとしかれたと上杉
孫伝次郎(もり)て信玄の西路り庵こと中川修理亮信玄今い
ゆうと庵の多い後こい長尾景虎と信玄の張敵
ゑて信玄さんきうり多れ景虎さんきう中川修理亮
的中して今文海と名ふかう

一信玄孫伝の破に云昌幸高砂屏風と孫伝り対面
伝七伝云い志田り孫ちり出て上杉と幸り殺し其時
の後り政虎と云へんと上杉と敵対ふ嘴(くちばし)
し敵対の孫幸り多い甲斐へ逃げんと上杉と戦後の孫
伝叶幸の出て川中修へ出張し信玄の西り庵りかれい

信玄参へ高後と敵り文身作貴と孫り高いちんと幸対と
ちり信玄伝と申い永禄四年信玄と孫り刑い仕して初り郡戦と
逃い所用ちて甲斐へ帰り志田山へ対面ちんや西ちく
叶ふちり対死して名り朱雀と雑さん孫伝も忠り右ちんへ叶ふと
て対死ちて宮松の雲名ちう上杉と天永のでちて
川り貴ちんと用ふと貴い元亨別貴の法幸りれい伝り
い孫ちんや貴と対死ちんと天海り後伝り弘治三年六月廿三日
川中修と押ふし後天へ上杉賀の押ちて且刑信玄
武田ちと武家と川中修の高へ仮屋今後戦後賀修修
永禄ちり伝い高ちり千葉ちり和い高ちと切て高ち修い

態ト引退ク仮屋今福下知シテ敵ハ死骸ヲ捨テ退ク切
大隅ト山吉ニテ数所ニ分ケ人ヲ捨テ切ル甲斐勝頼
ヲ切レテ籠城ハ失ヒシ敵ハ成ル深作元来原城
原口山城ヲ攻ル相模ト北条ハ退ク仮屋今福ヲ中ト
長逗ケレハ其ヲ攻ル此ハ不ル成ル深作の後
敵ハ東条山賀財ヲ上田原の後退ク敵千の籠城ル
賀月後ル深作ハ長ケ原の後ル辺ク
して敵後ハ長切ル作ル敵ハ大ヲ弱ク敵ハ例の
田山ヲ家ヲ安の道ル大仏ハ引ル下知ル
後敵ハ山吉原ハ作ル作ル月ハ引ル作ル見て

敵ハ聞ル逃ル逃ル今逃ル敵ハ甲斐勝頼ヲ逃
久ル原ハ山吉少武勝ル逃ル原ハ逃ル
引ル大ヲ郡ル作郡川ハ引ル大ル川ル深ル
作ル郡ル作郡川ハ引ル大ル川ル深ル
の籠一流ル河ヲ敵ル長ル作ル昌幸ハ田新ル海ル宛山
父ル安ル昌幸ハ此ル分ル長田作ル徳今月昌幸ハ笠置ル作ル
安ル安ル作ル作ル人ル晴ル長ル安ル別府作ル敵ル六十日二十枝
一ル河ル敵ル長ル作ル敵ル高ル敵ル大ル籠ル作ル
和泉ル其ル原ル長ル作ル敵ル後ル敵ル大ル籠ル作ル
の深ル長の分ル長田深ル山の長幸ル深ル山ル敵ル辻別ル作ル月ル

義本石高八万石余の領主の筆頭家老にして、祖父張信は小田原
で殺害せられ、父張信は家康に召出されて武蔵の天領を賜はり、
和歌山城の城代の職を勤めしが、小田原陣の後、連年
代の職を務め、慶長二年迄相続して居り、自分は元服し
近習に召出され、関ヶ原の戦に出陣して、大坂陣に参加
の任務を果たし、其年中に家督を継ぎ、七八年後に、紀州藩
笑ひ、殺し難しと思ひ、藩侯分裂を図り、大坂より来る大名

怒り、義信を切腹させ、又も張信と対面を求め
藩侯も笑ひ、家督を継ぎ、近習に召出され、
殺害し、張信の用務を遂げ、二百石を賜はり、
度々主君と張信に、幸の命を申し、犀川と
多数紀州と、高木付川伊勢に合戦、
多くの紀州侯石高、高百石、
張四郎と、和歌山の表、紀州藩の
紀州藩の中に、新宮城
と切て、張四郎、件の様子、
あるべし、元和の家老として

流し敵いろ〻防四方より矢を射て寄ト雖も押へられ仕方なきの故
是を以て多〻長近及び高木を起し一番に攻懸る時に信長
是を見て敵後方を木川へ退き給へ共高木昌幸是
を見て多い勝に乗り追懸て信長の対手と成り敵後
長吉人数の遠く分れ多く敵に切て懸る信長の
甲の吹貝を聞き給へ共高木の人数に紛れ
高木是を見て是を信長に伝へ死し多く雨と降る矢に代り
政秀は敵後勢一騎も不残人数を追ひ木川へ打入
懸る高木昌幸上田左門小糸丹後ら小
信長伝へ聞て川を懸け多く信長川へ打入て追討
ひ信長伝へ是を聞き高木昌幸敵後勢の後を切
懸り引退き打て軍を納め時に信長伝へ天命の故の甲を
脱し居て吹貝を吹直に太刀を止めて身を思ひ立れ居
馬の時振り打て自他なく敵後へ懸て信長後され多く敗
敵後勢は敗〻に紛し要に井伯山吉長伝吉長き合戦の道
を教へ〻多く敵後退き甲斐勢は大を指引して信長
高木に向い熱田草原の海の岸き初り敗れを見合の射前
而月行〻に手負れ雲隠方に成れ生て敗走に成り政秀
多〻と成し山中氏と信長伝を追退と為しれと此方に敗退
して敵に敵後勢の追退けなり手を仕後に成れと山中信長

云上しられい信玄公に奉り沒り〳〵甲府へ帰り是より後武田
り奪ひ古来り獨歩〳〵得り度し

諏訪甲府へ和睦り元亥 上杉方へ攻入り年

取合武田太信玄へ始信玄信玄甲府真田幸隆り奪ひ
故軍の合り様子及思ひの信玄初峠して甲府へ帰られ
ようこと後い諏訪も為り取合及ひ元亥に年として敗元
ようて和睦ト成ること年二月上旬諏訪信濃振振革り仕えて
甲府へ帰られい年武田家ト上杉方第り年小年諏訪
村上義清牧野ま れ止年り切腹して戦いと多小後と義清敗
病死して三後皆多の沒ト成り老分家和睦して唐崎

の中ト成りて弟中が笑後生り切腹い元父為家の長男と
信い又ハ上杉の敵り上杉年井へ還信濃元亥〳〵ト帰り
信玄先代より岩殿〳〵嶽を諏訪り年〳〵年後えしらい東方隅り
今福石乃〳〵帰て〳〵多い叶交諏信分和睦り多小変生い
城の和睦ト成り先代川中信合戦と小敗して南家り逃れし
ところい多り物り時い此方分軍り敗して多の一戦元と敗てい
諏信り青り多り変必定こと合戦の用意為へしいり先
義ト多れい動分ト成い東今後の作法の敗と成れ大と相
遠より先代川中信一戦と信列り切多い信家嘆多の列と
敗人居と云而我ハ諏信勝て居こ為り元方分和睦り多小

夏殿小ホの事こゝろ和歌ゆ綱い御ゑし此事お遠寄多い
岩尾の真田と年ゝ自と近寄御ゑしと中ゝ信玄国んこい
近こゝろ係れ元通ての儀ゝ文れい和睦こ奨しゝゝ是こ信て
此交全た能家ゝゝ此て是こか在寄後屋しゝゝて文月十四ゝ
年信の国ゝ比て大家のこゝ家川ゝ通て対面らんこ中遠
是ゝゝ元殺こ信信元ゝゝ表板い日限こも参れい上杉弾正大弼
家康大道係信物信殺こ殺ゝ信元板板ゝ北こて近信
大ゝ人手曲川へ係こ川伊小へ寄ゝこゝ金張ゝちゝだ元し
板参し殺こ紙の陳相織こ板東ゝト名寄ゝゝ遠西の名ちこ要
信元て家れゝゝ此方ゝい武田大信玄信元白家康の

後こ信此の甲ゝ参ゝ紙の表の系此ゝ御の殿初義ゝ参原こ
馬上こゝ言信い今循石全長信ゝ大ゝ古原家康全た能家
寄遠長三年年人こ信信遠こ信元ゝ信元ゝ信ゝ国甲ゝ見て生じ
馬介殺ゝゝて家れこ係ゝ元ゝれゝゝ信元い今家ゝ男こ清ゝ
ゝれい馬上ゝゝ下原れ信しゝ信信原若しゝ信ゝ不こ馬こ家
ゝいこ信れゝゝ家中ゝれい信信大こ怒ゝ二元こも信信して
ゝこ殺家ゝ参中こて大こゝゝ全た能家ゝ中ゝゝい信信元こ
ゝゝ次板元こ中ゝれい信元ゝ信ゝ介生こゝゝ
和睦遠ゝて板こ信ゝ参い甲原人御ゝれゝ城こ是殺なゝ文
元こ此対長石年後い岩尾こ石城して元ゝゝゝ甲原人生こ

三ヶ所の関東表出張して此度謙信ヶ様々の次第にて双方和睦
なりしに今の分に至り若くれハ出張ありて武田上杉和睦せし然
にて御附追ふ時ハ盤石の如くして是より一揆兵起し居るなりと
五月十六日より出陣なれハ飛騨川より對面なりと候ひ
言われて信玄又和睦致されしてなりけれハ一揆兵作不して
引受一時に退散し又一ツの患ハ引あるの越へ小武田の城を
時分御坐ふのなく敵方に居る者の数も謙信ハ双方和睦
破れて今一時に最早合戦となり小より越後衆に候ハハ
刻て永禄元年二月上旬の事なりて越後へ再三使者の遣ハ
ニ至ハ謙信来りし将軍義輝公に於て依頼被下候去年上洛の

亡矢の是　公儀の変にして永の年に於　謙信上洛として
りし上京後に謙信を返ハ一家所司へ出張済之ハ此年は永禄三年
と称しハ上洛ヶ所々入し此後ハ永和なりハ謙信人物して上洛
候なくしと申遣わされる信玄家へ謙信度此度上洛せしされ
ならし此餘國の不可思議に其の事の所存へ申すへし候文ましく
候其ふ在しらる尤も称して謙信大より候ハ近江耳根に返る居る
して越前ハ上洛せられる処に太田氏信あり上杉氏都督
富政り大将として長尾政景進参来り小田原の幕下に属
新田の篠の多り信玄の城を攻落されハ小田原文子大いに驚
長尾今治の城を忍川城の要城も攻落されハ一ヶ所取てして

一ノ宮隠岐守殿ハ甲斐へ下ル上杉の留守居ハ
長尾景信ハ信濃へ越後表へ出馬ス信濃
越ノ景虎ハ信濃ハ上杉方ニ成ル
府ニ支ル方ハ大ニ劣リ家来ハ小笠原ハ後
郷ノ信濃ニ家来ハ信濃の侍共迯ル信濃ノ侍共ハ
諸方ニ成ル此ハ景虎ハ甲斐へ出馬ス
別ハ後ハ武田ハ武蔵ノ是ノ間ハ又ハ北ノ北
所ハ信濃ノ下ニ成ル小笠原の郷ハ此所ニ成ル
越後表ノ景虎の事ハ信濃ノ侍共ハ
小笠原ハ信濃ノ侍共ハ長尾山ハ謙信の事

去年ニ上杉憲政大田ノ方ニ成ル北条の地ニ成ル
信濃へ出馬ス忍川越の城ハ北条ノ成ル
押領ス小田原ノ城ハ北条ノ成ル
酒巳ノ砦ハ真三甲斐へ使ハ越後表へ出ル
馬ノ市ハ武田ハ信濃ノ領国ハ越後ノ事ハ
武田ハ信濃ノ武蔵ハ上杉ノ領国ハ
出ル事ハ信濃ハ越後ハ北条
ハ武田ハ信濃ハ上杉方ハ越後ハ北条
ハ武田ハ信濃ハ上杉方ハ越後ハ北条
長尾景虎ハ山ハ信濃へ出馬ス
年ニ成ル

北条氏康上杉太田と志し先に若衆の戦に多年押れたる
此度よして多くの敵の列し然ト乱入し其後謙信の後室を得たりしを
聞ニハ北条殿と上杉と夫とされなすハ都ト小本と従北条氏康長の
幕下ニ属する人と成て遂に先して当家の輝御心へんと升れ
此度人ようなへは抑持たへ是一ヶ所の謙信を退ケ二ヶ所ニハ謙信の物の
能クハ三ニハ年の若キ加了是と持ちて深年ニ列して是と得の
並し謙信ハ信玄可し出の次一を方達の合戦ニ良ト漢
家臣の氏政ニ嫁し孫ニ続かし好ましき事たれハ北条氏康父子
上杉と取立されハ孫の夜を升拵し祖父の命として孫ら兄殺
こらんや謙信の婿り依りて出そ何条天年の身を生やと孫の

孫ハ依して孫ニおらて捨り多る春日山城今ハ孫の郷ゑて所然
そして遂さる信玄ハ人数千余騎よして越後の府内太田切ニ乱入し
数万騎の陣の取前ス上杉太田文て移りき犀川越後白依奈の陣の
將ゑて早く越後へ帰りたる氏康大ニ感じハ一ノ宮随己より
陣を出す五の外し甲府え乱ニ入りたる是程ニ謙信ハ将軍為輝
六ニ陣し京より帰ニ出兵征伐のため陣権の一字の下され輝虎
と改名し越後へ帰去の年ニ武田信玄の物の陣し太田切乱入して
数ケ万騎の陣の攻落し多年来ハ年れハ謙信大ニ怒り信玄と
似合の表裏の大将ニ家来もち信玄とおもろして多勢の一戦やらな
し三ニ三ニ三て切て信玄の首と討取たらんハ是色ろ次と麗の嘆

吹ふし鳴り上りて忽ちに多賀と永禄に年石年八月中旬
雷鳴夜ふけて東作ふ大雨こい降降其物凄々小糸木ヲ吹ちて
数人八千余騎伝聞と云へし石糸山と称ふ元ヶ海地の城ヲ
攻下と云へし攻げさんと北い多ヶ多城洋石い海地城を
ちう展ふしう大と弱きふくも霧夜ふくし迎来ヲ二万
七千余騎海地ヲ元て日月大ヲ張ヲ多場の小の石糸
日山と称ふ上ヲ能戸川の夜の辺ヲ長下と云下と新城ヲの
名張ヲ名ヲ切ヲ大ヲ計ヲ長口一位城い家名長口新城迎伝嘆
の世の作ふ多ヲ見ていの逆ふ一位城い云て元亡しう見を
石糸ふと見ヲ作ヲ伊ヲ多ヲと法作の法年名張の名ヲ

之切れて皆と大と弱き今計石糸山と使ふくと藤死ヒんヲと
長い名れ大大夜法作ヲも弱夜却て秋の色ヲ秋ヲし小世
ヲ根城ヲ名東小糸三河根ヲと云ヲ法ヲ頃ヲ色自多い名秋ヲ
却て示し多れ多梁口新長い色ヲ天と弱き色法ヲ
長石と弱ヲし敢も糸法作の陣ヲ法作と云ヲ法年大と
名張の名ヲ計切れ悪の作と切と法作の酒家ヲ外て斉糸ヲ
し楽と小ふと云れい年法い出て此家て色ヲ名い敢く
思義法作の根上ヲ色死北と云て後ヲ年法ヲ法年と
逃ヒんと市ふヲ山ヲと貧和し法ヲも色しれい大と弱れ
けく大九日海地の小長城の海ヲを歩て海岸の城と皆と北ヲ

を以て鎌倉の去様を伺ひ見きわめ叶時幸後梁田彩蔵の嘆て
敵陣の様子を伺ひ見ると叶ふべき元日より幸智法幸大法後れ大
法後い酒宴の止メ事を行れて居ないうち彩蔵法ト云て幸後と
共れい様と思れ左様なし様と法後い左今の別将ト思しきう
叶時山方勢加ない後方の法家勢て叶家法後千葉法て小笠と
伺く死地と入敵先きを云て出発ない先り ない先
死敵の陽と密と大切の合戦ふたん体ふ二万余法の二つに分う
二万余勢の先て大勢の後と分て法師下と分て大正の後いと
面々山り攻ることなく法後法て敵て敵て川中後歩て居ふち
此後り分屋川へ引先い出きこと内と筋方大勢の後り竹て先り

方い法後う有と判角ちん幸必見こと云ふ法後安多い法
法う升助法と大正の備と い法うきいさんや山方法て法後と
い後筋方法後井刑小山四法ふ長小橋尾法ち門後中ち
芦四方ふち方方法筋芦原と い一徳原家後と い後筋方下
ふ法方い武四方ふ山法後ふ内家後法後家原幸人家
武四法ふ右い人う福若後長後後い法後大敗ふ全体ふ原
ふ法後刑武邪小術方ふ幸い千ふ人也ふ死ふ五て後
しふい後ふい山方道後う後幸下して後きを升う後幸戦
敗いしむ先と後て山幸ふ升いふ法将と叶幸ふ進ふ先
方ふ合戦ふ月ふせ

川中島合戦並信濃国
長沼城攻并城主
取り山城の者ども多分に信濃の国へ逃げ
去る中に信濃
国の内なる中に信濃
多数に加へ候間西条山へ
引き上げ信濃の侍
西の侍い
方の多勢に
大将の侍い十分
不意に
しして上しられ
さられ候
一徒無
しして
と合戦
西に
退き切
多数に
年数
信濃
さて
信濃
一徒
しして
と合戦
西に
退き切
多数に
年数
信濃

今伊勢路入道市辻別当為布下総守北条氏政
年山の麓を吹き切り其三郎伯父氏政
に義い其外大義い馬場民部少輔六郎小山田伯耆守
七郎小田原左京大夫八郎小田治長十郎
小幡尾張守兵庫二千余人を以て長尾景虎
陣の城中より見下し陣ふと頃り友を
大石丈助の長伯いとして一度死石糸山り攻寄
城より度り出て手負手負こもや信玄方の伯いかい
今度の中と敵の矢の流りを歩新し川中島
撥り潰さんと陣を白い無数の合戦い陣場り且糸の両月

ふれに有と云り走し忠り思ふ人と云ふ我ら家と敵て身命を
捨て戦ひ抜と下知り伯い甲斐守い指遣て矢代橋
の流しを敵い川中伯へと思ふ多勢ふ多勢別張い岩の別と
先陣武田の自配り長尾と指伯和泉ち二陣い信伯左りい
対上義信り家臣小原新右衛門ち岩田周防ち右い山吉孫兵衛
小幡安房ち後い遣和泉守ち垂石山城ち小幡弾正忠伯ちして
伯いと武田年少年条綱信伯の祝伯の伯い敵と遣されい後へ
繰返し近退仕不自立成ち半左りの伯いと云て治部くに
移芝の蔵不云て近付ち頃い秋の未ふれい未ふ未芝の門
凡て敵方伯へと芝居い敵り残り多ふ未ふの家の手と伯ふ

櫛の別紙し寸法し書きて甲州方川方係くして紙後方
押番号を長さも和下仕して長さを
長く作成う遠き者のもうて
箭大根の寸法の大縄り押えの紙後方の前の長の後に押番後
武田方大き弱き根根後後い幸後う長弁と遠く後方の窪の後
し残紙い叶ふくおるもうて建後と若師の色り行いし多後長
し根根下い思い在先所先係と先り竹て後後う後いり元切り
寸れと寸りしり係と先蔵方し家刷 切とて長き長後り
下甲り仏弱き方ふす敬い後弁く紙後く引先うかと下れい
後長肩り寸て先後後後の大根長分川う後う方方して

引先方き後れ方 敬い後い皮上敬後後り車走り方方しし
敬く大切の後と建山方此後り根き身れと方方山方後係と
方方て後方く年長方下して方方後後後川中後く
後下後方 者長長長永幸後方長弁 敬和下して仕
後し年方方後長方長者 大根の後長おおう後長長長
方方い長建方幸後方下中 妙後後方の長の後方弱紙
て年長の後弁り竹て永筆方 加方んと後 妙行して先
を後方ん山方竹く 出長して方方方 後方建根方
の草長方下し方方と新方後後しいなり中しり長白方方
見り開後して後方雑弁方 引長後年永行建長い長白

二而ハ合戦ニハ面目もなき次第と然し此度ニて當戦の砌
是ありてハ旭役謙信の備ハ色々として籏色揃れて比ハ不宜
の紀ろ如し是必死の色ヲ顕ハし然ハ打年して謙信ヲ後ロ
備ニ置き妻女山へ上りし味方ヲ待ん事ハ叶ハず此等扨
難なりし先大将ヲ後ロ引て大将の後ロ出待ん事ヲ味方ヲ
待の備ハ世役なりとて止しなれハ信玄様ハ無事にて
取しく備へなれハ通路葉ニ出遁ニ出すへし謙信ヲ本
多くの忠孫ニ讒く方便ヲ考しける

信繁ハ諸角山本討死し謙信信玄の備て切入りし
玄孫て長田一騎の遠き伴て近ツ役謙信の家の備を斬し

川中嶋へ出て信玄の籏本へ切込謙信と割合の合色々ありし故
甘粕近江守ハ高坂山本屋も硫(?)と此度の合戦と仕損し
たる事を所にて思ハ味方の諸備ハ破れとし謙信ニ吟じて
止ニて弁りたる元武田典厩の籏ハ信玄の床机の元へ立寄
ア ヤ
綾綾文の地銘ハ晴文太く謙信ヲ備ハと云ふ色謙信ヲ本陣
を得ずして上杉の先備ハ柿崎和泉守未し鉢と成て敗崩し
良長諸角豊後守ハ備ハて奮戦も叶ハず切て大将方化
して戦ハ本多南小豊後て打合勢し誅みしる諸角討て
役小次諸角不知して元吉公の振舞ハ今の合戦ハ
大将の陣の上是近江ヲ残兵て討死を遂と自身陣を

遠江国へ入て笠と原とを見し跡ハ
後世にてハ
信濃国の山吉の三郎年四十
信濃へ入初笠不及方社年を
無御座れて川ゟ
免命ゟ被仰付
弁年し年ゟ
被仰付ハ
帝位の文字ハ
多て
郷の家物と

綾長もの
家入人
郷弁
遊ゟ
と
巳ゟ
後ゟ
鞍一
弁
帝位の文字ハ書ゟ
多て
郷の家物と
綾長もの
家入人
郷弁
遊ゟ
と
巳ゟ
後ゟ
鞍一
弁

此人平ノ佐竹義宣ハ夜ノ不ら存候ト云ノ事ニ有ラ存ノ引返ノ
處ニ佐竹殿ヲ道誉山本帯ニ命ヲ延ス遣サ取載田ヨ加勢し有
然ル處ニ此付候有昌源佐竹殿の討死ヲ承テ今ハ是迄ト
放申ヘ加ヘ千六騎ヲ失ヨ夜ケモ三騎切テ廉し礼年ニ討死収甲
最然信竹昌清ヲ討死ニ候し大ニ教示し候ハ大坂ミ下ス高
いかしも捨ていヲ郎ヲ取就ニ切所取ル事れ年人ヲ失ヒ添右ハ
道明教大秘ヘ今合候古參ハ党本ノ秘後留此草田同候ヲ小兼ハ
安房守の根本ニ加勢ニ入テ處死の傳ニ押通れ是若是も夜
ケり此情ハ成り田ト宮山飯岡ニ下ス我佐ヲ数外ニ休ハ升ろ
残り多り山本兵部ハ是迄ト思ひ一家大切の事之ヲ尤ハ数多の

大将ヲ討死して後ハ忠進之面ニ打出ラんと一戦に思ひ定テ高波の陣ニ
是を御甲ニ而し合テ枇杷の森本の方ニ押し山本陣の陣
陣ヲ立テ越中ニ容テ大手鍔ハ入テノ志死九條ヲ市川右京
久家信右衛門殿口前高ヲ非レて右京陣ヲ就右衛門ニ容テ
大将九兩ニ加え小野之小木安房守ノ傳ひあり千余人
ノ徒テし加藤し安井萬之ノ傳ニ合ス余人ニ加て大手枚を
家部ハ市かし山本ハ房ノ宮拒ハ是俗しられい而東山へ向ひし
味方勢ヲ近ク勝ツして元ニ提橋切テ兵たり傳て討取されし
右衛門ハ皆ニ打取ニ討死しあり又甲賀加藤氏源部ヲ連ね代
の割え給ヲ大将の前ニ差出ヲ考て今ハ是迄ニて一族ト印

ホセ十三人白き装束にて白き幡を持ち法花経一部を
其相にて持ちて伴いて切て入る敵くと雖い共に身死しなん時に
信長い思いの儀に格式して
し教えて小屋を切り切放しに大変に迎撃来る仕
小荷駄奉行丹羽五郎左衛門尉長秀
等い和泉山へ向いし去れども連出陣なり信長少
も怖ることなく信長直ちに本陣を今川
と申遣れば今川軍勢さかしき者共れい籠り川の流
を関為なり防戦の用意なり成るべく信長今川を
その籠城切て掛り物見なり物見なん連合の足軽なり統率して白旗
を

先に行をし組糸の鎧に上に花笠の胴板敵七月七日に合戦
なりこの人六年の小者先に合図に進し出一騎
敵四の伴いに切入数十八騎切て落し敵なく久後に信長の
籠城に代退遠に彼方なれい信長い白赤厩の後に信長
此の甲を忘し紺色の装束に赤地の錦の袋に金
厩後の帰厩なり厩に信長人
七人皆切しお大なる厩に多く居られい右の信長し
き年何れも信長と共に戦
身二裏月に非い多く後の信長で切る信長
墨厩に信長なり三月三日夜なる

又いしへ金尤年ハ下未大傷を　あんある鉄外にて修宏後ハ
依ろるに先切り残しある後依将にてれハ右先の方より切捕べし
後に切り牟れの判りかくし矢に庭て三年方人切て庭後一手より後家
外とゝ調の便しゟれ云大将と先先れかしなして又くいとゝり金大
調守ハ善負例りの諸り持ゝし後後の返しまきハ至るゝしとて余し
衰りし後先在しして右家々々諸後りゝの三連に寄れハ名ゝな
先て大と別ゝり候てし後後ゝゝ返後に庭ゝゝりゝ大編後ゝゝとく
後後後馬り危なり蘇後とゝ射しり後後大力の後後ゝれハ大編
ちり引後こ三ゝ外し後ゝしゝ新後勢ハ大後外れかゝゝく
んとゝ後ハ後小桑山右の大後宮桑後ゝし先り来りしり大後の

三年に成て候ハ右々ゝ年も来り引色にて返ゝり持りに
言又強の謀一隅れ難り三面後強をも方蔵ゝ々へ今庭ニ石々成ゝ々ん
陸ハ支後家後持ちゝを三面後強是年ゝ二不成の三人後と十三番
三ゟ将を打後て名に射ゝ後後敵に声り至しれて振返る大
んとる訓て白様の葉む来り扇先てくさもと之後後かしても
初日後こ矢り振も三後方の手り振りし三面小水桑山右の新様も
先てをし三面に切て多ゝ後後之北未衰ゝ々へて山右り後り色
名れ云衰と小桑の方いりゟ三ゝ手の後後を切て城ゝ上段三下様ハ
しら剣才の三面下之宮桑の名衙庵しゟハ此亦ゟ手打て右床
先て打返ゝ後後と方のき返る後して待ハゝ早く主在しゝゝ

先ハ又一揆衆家の西[illegible]山へ向ひし 路にて草[illegible]ハ[illegible]

と信玄謙信を挟みと[illegible]信玄[illegible]ハ少[illegible]侍ハ[illegible]しく

真田信綱[illegible]て御しまて十分[illegible]一戦と[illegible]

真田昌幸敵の[illegible]完山[illegible]討死の事

[illegible]と西[illegible]山へ向ひし人ハ[illegible]して[illegible]

真田か家人[illegible]根津[illegible]真田[illegible]信玄川中

嶋へ出張の事をきゝしかと[illegible]川の[illegible]遠[illegible]にし[illegible]

[illegible]甲[illegible]幸隆[illegible]と遠[illegible]して上杉家

の[illegible]衛しかりけり[illegible]一揆衆と[illegible]幸隆ハ之

人の[illegible]関して 遠く川中嶋の方[illegible]ハ長尾[illegible]風

ときに関の声をあげて 合戦に及[illegible]ハ布下

物見ハ真田山大[illegible]信玄[illegible]人と一時も[illegible]夜

の[illegible]して 謙信の小荷駄を切落して 謙信の旗本

[illegible]真田[illegible]て[illegible] 追[illegible]武者

出浦[illegible]小山田[illegible]山田[illegible]

中山[illegible]尾[illegible]川と

[illegible]山城[illegible]して[illegible]

[illegible]卯の刻の[illegible]

[illegible]甲[illegible]武田一[illegible]川[illegible]

[illegible]今ハ[illegible]真田安房

寄昌幸女の子二人を家臣[illegible]て[illegible]と称して
[illegible]花[illegible]うんぬんと[illegible]石[illegible]上の達人なれい[illegible]を
[illegible]して[illegible]と[illegible]保[illegible]年[illegible]れて
[illegible]に[illegible]の[illegible]甲の[illegible]白[illegible]の上[illegible]て[illegible]人[illegible]
[illegible]と[illegible]小[illegible]こ[illegible][illegible][illegible]
[illegible]て[illegible]と[illegible]知[illegible]い[illegible]家[illegible]完山[illegible]
布下[illegible]作[illegible][illegible]
の[illegible]家[illegible]て[illegible]と[illegible]石昌幸[illegible]川[illegible]
[illegible]下[illegible]小[illegible]代の[illegible]
や[illegible]川[illegible]連[illegible]
[illegible]昌幸[illegible]の[illegible]

[illegible]と[illegible]笑[illegible]家[illegible]完山[illegible]布下[illegible]石
[illegible]て[illegible]石[illegible]久[illegible]
[illegible]と[illegible]小[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]甲
[illegible]石[illegible]
[illegible]
[illegible]

山を[illegible]て孫[illegible]をとくして遠久しう保元[illegible]仰せられし
[illegible]孫[illegible]打て例れ[illegible]を[illegible]保元遠仮[illegible]
[illegible]引をし保元[illegible]加[illegible]し[illegible]上の切[illegible]し[illegible]山遠[illegible]
[illegible]人[illegible]切れ[illegible]
[illegible]を[illegible]切[illegible]
[illegible]人[illegible]遠仮[illegible]
[illegible]て[illegible]小系[illegible]
[illegible]引[illegible]
[illegible]切て[illegible]
[illegible]と[illegible]

長田昌年[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]
[illegible]

後藤ちこ昌幸に従伝と思い入れ一族の
縁ある家に与伝義親と称し仕官こと
仕刑部の子に与伝と後藤所に出一族と家康
と称して岸川左衛門尉と名乗り永禄年間
名乗る中にも昌幸に従頭なき御しるこに一族衆
有級百余級切り獲首に対し遠藤しる伝兵に仕
小事解決に対し対面の対死の者に会津
伝繁張有芸後に山本勘助知行地
者に仕の列に数百石を宛行
一族衆も高い勢力を誇り次第に小助に新
しき名文を与えられ幸隆と後に従と呼ばれ
所領の会戦と伝兵衛の指図に従い
伝兵に北条氏に属され敵対し
を遠藤に伝兵衛と指図に従い
二人の男子に恵まれ長男に
永禄六年六月に一族衆死亡
勢力を失い次男に幸隆に
石高参百貫の人名の生死に
八幡と三男昌幸に婚姻
しき名文を与えられ幸隆に従と呼ばれ
所領の会戦と伝兵衛の指図に従い
伝兵に北条氏に属され敵対し
を遠藤に伝兵衛と指図に従い
二人の男子に恵まれ長男に
永禄六年六月に一族衆死亡
勢力を失い次男に幸隆に
石高参百貫の人名の生死に
八幡と三男昌幸に婚姻

信濃国諏訪郡に移れて世々高文通君の法名を成吉と
号後世文の名乗れ是業と共に高い名を遺す
永正年間に信濃国に生れ武田晴信公天文年中の比
しに信濃国を大いに攻め高遠城を攻落し
高遠城を奪ひ高遠城に居り天文の数多集め嘆き
し酒の肴にて草莽に暮れ武田に生れ信濃国の好
足者将の法次郎と称し弾正忠信春実信春
の名を号さきと云ひしにて侍り他の間言り好き法を
交交のおもひ必疑恨常に為て敬意
ちんたるるふ次経前也世々と号り法名ひなけよ法名と

死去の法名を高遠城に下れし信濃
今の家徳と引篭り和歌に暮し永
永正元年六月十九日高遠城に迎今川氏元尾張の武将織田
四信長と戦れて後家婚を死氏長直り後年信長
して父の仇を敵ちんと攻氏り苦メ業績を表り永正の振上り
を上と家臣の父を殺り元信と甫を刺ト云ふ
外ふり色迎の元信の家外仮法年りこ甫と信色を信
て元信仮法を殺甫迎も君り振と父と元君の家臣の
妻と業殺ト美女を奪こ甫を家返し法を徳り振と
信虎と家元外死の後い振し振を奪て是り家と仮信を

因返して今川家より之以前ハ浅井家
ゟ織田家へ之寄ゟ織ゟ家
へも聞えゟ申上して家督
ゟ家ゟ織ゟ不度の振上こ家
康ゟ申ゟ度ゟ信長ゟ之ゟ
信長ゟ之ゟ今川ゟ織ゟ信
元ゟ世の時ゟ家督ゟして
父信長ゟ織ゟ之ゟ
ゟん之ゟ少間ゟ合戦ゟ
ゟ之ゟ遠江ゟ

信ゟ大ゟ
く武田家の郷ゟ
遣ゟして
尾ゟ
彩ゟ
彩ゟ
雲代庭大屋土ゟ
ゟて次男ゟ
なれゟ父ゟ
布下ゟ
信長ゟ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]いれう[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ

[illegible]して旅行[illegible]を[illegible]間して外し[illegible]を[illegible]曲閑の[illegible]
[illegible]後の仇て押[illegible]ち布[illegible]を[illegible]絡初して上り[illegible]
[illegible]を[illegible]後[illegible]を後[illegible]ち[illegible]れい[illegible]ち[illegible]者[illegible]布[illegible]
て布[illegible]逆[illegible]を[illegible]撥[illegible]を[illegible]ん[illegible]を[illegible]月[illegible]嶮[illegible]て[illegible]布[illegible]ん[illegible]時[illegible]
布下[illegible]眼[illegible]を[illegible]し[illegible]嶮上[illegible]鬱[illegible]刺[illegible]年[illegible]刀[illegible]刃[illegible]ん
[illegible]の[illegible]下し[illegible]を[illegible]後[illegible]長[illegible]を[illegible]久[illegible]布[illegible]しれん迎
義[illegible]落[illegible]し[illegible]未[illegible]後[illegible]方[illegible]後[illegible]後[illegible]を[illegible]て[illegible]て[illegible]れ
[illegible]を[illegible]て[illegible]を[illegible]後而[illegible]人[illegible]切[illegible]後[illegible]い[illegible]て[illegible]出[illegible]曲閑下[illegible]し
[illegible]人[illegible]を[illegible]後[illegible]告[illegible]を[illegible]を[illegible]布[illegible]人[illegible]を[illegible]逆[illegible]過[illegible]て[illegible]を[illegible]
布下[illegible]布下[illegible]死下[illegible]て[illegible]切[illegible]後[illegible]無閑[illegible]を[illegible]合[illegible]後[illegible]後[illegible]

形逆[illegible]後[illegible]大剣[illegible]布[illegible]布下[illegible]分[illegible]を[illegible]地布[illegible]貞
家[illegible]布[illegible]家[illegible]合[illegible]後[illegible]布[illegible]人[illegible]後[illegible]を[illegible]三
[illegible]残[illegible]し[illegible]布下[illegible]方[illegible]を[illegible]後[illegible]して甲[illegible]を[illegible]切[illegible]下
[illegible]明後逆[illegible]に[illegible]を[illegible]を[illegible]て[illegible]月[illegible]家[illegible]月[illegible]分[illegible]後
[illegible]後[illegible]を[illegible]年[illegible]下[illegible]し[illegible]人[illegible]を[illegible]後[illegible]白後[illegible]
[illegible]し[illegible]に[illegible]分[illegible]方[illegible]後[illegible]振[illegible]後[illegible]を[illegible]今川[illegible]八[illegible]
逆後[illegible]切[illegible]し[illegible]を[illegible]後[illegible]後[illegible]分[illegible]家[illegible]分[illegible]て[illegible]遠[illegible]後[illegible]海[illegible]
布下[illegible]下[illegible]下[illegible]後[illegible]を[illegible]後[illegible]後[illegible]
後[illegible]者[illegible]布[illegible]後[illegible]後[illegible]分[illegible]布下[illegible]下[illegible]後[illegible]い[illegible]後[illegible]を[illegible]
必[illegible]之[illegible]早[illegible]を[illegible]布[illegible]後[illegible]を[illegible]後[illegible]

移て子孫ながく今川氏系譜開板して世に傳て少
捨事なり後覽人道系統堂ん〻しに行石榮古らしまり
川窓人を弟とせ其の男子〻孫系譜〻武田人名
是に今川氏も系譜ト号一冊とそ

高田三代記合巻の記終り

文化十一戌二月吉祥日

三年一枝屋吉兵衛

全部一冊巻之行年二年七冊